

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年10月10日(金)5校時
場 所 5年1組 教室
児 童 5年1組 男子15名 女子14名 計29名
指 導 者 三 宅 紅 子

- 1 単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう
学習材名 「大造じいさんとガン」 (光村図書 5年)
補助教材 「ごんぎつね」新美南吉作 「鹿」村野四郎作

2 単元について

(1)児童について

これまで児童は、登場人物の心情を、直接的な心情描写や会話、行動描写などを基に読んできた。低学年の教材では会話のくり返しから気持ちの変化を読むことが多かった。中学年、高学年になるにつれて、会話文も減少するため地の文から心情を想像して読むことが増えてきた。

自分の思いや考えが伝わるように音読をする際は、読む速さ、強さ、声の調子、間の取り方等を工夫してきた。本学年では、初めて「朗読」を学習する。朗読は、作品を読んで自分なりに感じたこと、考えたことを表現する学習である。中学年で学習した音読の基礎を押さえながら、高学年となってより深まった読解と結びつけて、取り組ませたい。

(2)学習材について

「大造じいさんとガン」は、大造じいさんが、がんの頭領「残雪」との戦いを通して、自己の価値観を見つめ直す物語である。本文は四つの場面から構成されており、4年間にわたる大造じいさんと残雪の戦いが1年ごとにまとめて描かれている。登場人物の設定、時間の経過、場所の設定が簡明であり、話の展開がわかりやすい。また、大造じいさんの心理を描き出している細かな行動の描写、秋の空や日の光を中心とした情景描写、仲間を助けるために戦う残雪の巧みな描写は、児童を物語の世界に引き込んでいくと思われる。こうした描写の仕方に着目して読み進めることで、残雪を「たかが鳥」と思っていた大造じいさんが、その知恵と頭領らしい態度に心を打たれるまでの心情の変化を深く読むことができる。

本教材で学習を進めることにより、情景描写が、登場人物の心情を表現する効果があることを、とらえさせることができると考える。

(3)指導にあたって

身に付けたい力を次の3つと考えた。①登場人物の心情を情景から読む力。②自分なりに読んだ心情を朗読により表現する力。③登場人物の心情の変化を読み取る力。そのために「朗読」を言語活動に設定した。単元を通して段階的に朗読の場を設定することにより、児童は意欲的に①と②の力を身に付けると考える。①と③は根拠となる言葉に着目して読ませたい。このとき、情景から心情を読む活動は児童にとって初めてとなるので、前学年で学習した「ごんぎつね」を使って情景描写について説明する。また、理解を深めるために、ジャンプの課題として、読み方のスキルを行う。②の力を確かなものにするために、形成的評価として、毎時間短い朗読の評価をする。さらに、最後の朗読発表会において、好きな場面を選び、自分なりに感じた場面の様子を表現する朗読で言語活動を行う。

第1次では「音読」と「朗読」の違いについて学習し、単元終末の活動のイメージ化を図る。第2次では情景描写が心情を読む際に有効な叙述であることを学習する。また、本時の「ジャンプの課題」に「海の命」の一部分を取り上げて、情景から心情を読み、朗読で表現することを練習する。第3次の朗読発表会では、これまでに学んだ心情を情景から読んだことを表現できるように活動する。また、自己評価、相互評価の場を設定することにより、振り返ったことを自分の朗読に生かせるようにしていきたい。

3 単元の指導目標と評価規準

観 点	目 標	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	○登場人物の心情を表す叙述を見つけながら作品を読むことができる。	○登場人物の心情を表す叙述を見つけながら作品を読んでいる。
読む能力	○自分の思いや考えが伝わるように朗読をすることができる。(1)ア ○登場人物の心情を考え、優れた叙述について自分の考えを朗読に表すことができる。(1)エ	○自分が文章から受け取った印象を大事にして音声化している。 ○文章を朗読するために、会話や行動、情景描写から登場人物の心情を読んでいる。
言語についての知識・理解・技能	○言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。(1)イ(カ)	○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読んでいる。

4 単元の「学びのプロセス」の構想(全9時間)

【指導過程】

【問題解決の流れ】と【主な学習活動】

第1次(2時間)
単元のねらいを知り、見通しを持つ。
【関心・意欲・態度】

【主な学習活動】
①・教材「大造じいさんとガン」を通読し、並行読書の見通しをもつ。(時代感を共有する)
・「朗読」と「音読」の違いを知り、朗読について大体を理解し、練習する。
②・場面分けをする。場面に名前をつける。

◆優れた表現によって、直接的に書かれていない人物の心情や性格について想像し、自分の表現で朗読する。

朗読と音読の違いは何だろう。作戦を工夫しているなあ。
・自分なりに思ったことや考えたことを、明確に相手に伝えられるように、音声化することなんだ。
・場面毎に作戦の名前をつけると分かりやすい。

第2次(5時間)
情景描写が心情を読む際に有効な叙述であることを学習し、朗読に生かす。
【読む能力】
【言語についての知識・理解・技能】

【主な学習活動】
③・「情景」について理解し、1の場面の大造じいさんの残雪に対する見方について読む。
・補助教材「ごんぎつね」で情景描写の確認をする。
④・2の場面の情景から大造じいさんの心情を想像して読み、朗読をする。
⑤・3の場面の前半の情景から大造じいさんの心情を読み朗読をする。【本時】【ジャンプの課題】
⑥・3の場面の後半の行動から大造じいさんの心情を読み、じゅうを下ろしてしまった大造じいさんの心情を読み朗読する。
⑦・4の場面の情景描写に着目して心情を想像して読み、朗読をする。

情景描写の効果について考えよう。
・情景描写が心情に大きく関係があるんだな。
・行動・情景描写があると場面が盛り上がるな。

第3次(2時間)
自分の好きな場面を選び、朗読発表会をする。
【読む能力】

【主な学習活動】
⑧・自分の好きな場面を選び、練習する。
⑨・朗読発表会をする。

・様子や気持ちが伝わる読み方だ。
・同じ場面でも感じ方によって読み方に違いがあるな。

5 本時の指導(5/9)

(1) 目標

- ◎自分の思いや考えが伝わるように朗読することができる。
- 言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	支援と評価 ★手立て2(対話) ★手立て3(「課題設定」「評価活動」)
つかむ5分	1 前時の学習を想起する。 ・2場面の大造じいさんの心情を表す情景描写を想起する。 ◎作者は大造じいさんの心情をどのように、工夫して表現していましたか。 2 本時の課題を確認する。 おとり作戦をしようとする大造じいさんの心情を考え、朗読しよう。	○情景描写には残雪に対する大造じいさんの心情が表れていること	・情景に心情が表されていることを想起させる。 ・ハヤブサが現れる前までの範囲とする。
学び合う	3 音読する。 ・内容を確認めるようにはっきり読む。 4 大造じいさんの心情が表れている情景描写にサイドラインを引く。 ・どんな気持ちがかくれているか、自分の考えを記述する。 ◎大造じいさんの心情がかくされている情景を表す文章に、サイドラインを引き、ノートに抜き書きしましょう。さらにどんな気持ちがかくされているか書きましょう。 5 全体交流する。	・情景描写から心情を想像すること	・心情を表した叙述を抜き書きさせ、そこからわかる大造じいさんの心情を記述させる。 ・書き出せない児童には色や修飾語、会話等に注目させる。 <評価> ○言葉や表現に気をつけて、様子を想像している。【読むこと】 <評価方法> 発表・ノート
ふかめる	・大造じいさんは青くすんだ空を見上げながら、にっこりとなりました。(余裕がある気持ち) ・東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。(戦闘意欲) ・美しい朝の空を、真一文字に横切って。(成功する予感)		・心情がわかる情景描写以外の描写を選んでも否定せず、「情景」に焦点化させていく。【読むこと】 <評価方法> 発表
	6 部分朗読をする。 ・情景描写の効果について考える。 ・情景描写の違いで登場人物の心情が変わることを想像する。	・場面に合った朗読	・四つの文を紙板書で提示し、比べさせる。 ・「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」を取り上げ、その文と比べて心情に合わない文を提示することで効果の違いを感じ取らせる。
	「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」 ◇(情景無し)朝が来ました。 ◇東の空がどんよりとした雲におおわれて、朝が来ました。 ◇東の空が赤く燃えて、朝が来ました。 ◎東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。		
	◎戦闘意欲がわいてくるのはどれですか。それはなぜですか。	○闘志に燃えた気持ちが伝わる読み方	

38分	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの場面を想像した朗読をする。 		
	<p>7 まとめる。</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">情景描写から心情を考えることができる。</div> <p>8 ジャンプの課題に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「情景描写」に表れる心情を想像する。 ○ 情景描写はどこでしょう。 ・ 誰のどんな気持ちが隠れているでしょう。 ・ どんな気持ちを込めて朗読すれば良いでしょう。 <p>朗読の仕方をグループで考え、個人で練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ グループ交流 <p>9 全体交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 朗読発表（個人） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジャンプの課題を解決し、朗読の仕方を考えること。 	<p>〈評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情景描写が大造じいさんの心情を表していることを理解している。【読むこと】 <p>〈評価方法〉</p> <p>発表</p> <p>★ 「情景描写」が「誰」の心情を表し、どのような気持ちで読めば良いかをグループで対話しながら考え、それぞれが朗読に挑戦する。【手立て2・3】</p>
ひろげる 2分	10 今日の学習の振り返りをする。		

(3) 板書

ジャンプの課題

ま 情景描写から心情を考えることができる。

- ・ 朝がきました。
- ・ 東の空がどんよりとした雲におおわれて、朝が来ました。
- ・ 東の空が赤く燃えて、朝が来ました。
- ・ 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。

◇大造じいさんの心情は

課

おとり作戦をしようとする
 大造じいさんの心情を考えよう。

◇大造じいさんの心情が表れた文

大造じいさんは青くすんだ空を見上げながら、にっこりとした。

- ・ 東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。
- ・ 美しい朝の空を、真一文字に横切って

(4) 座席表

黒板

